

コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2023年1月27日

BMJ:

新型コロナワクチン：年1回接種で良いのか？

【松崎雑感】

米国感染症学会会長カルロス・デルリオ氏の発言を主に報道したBMJの記事です。インフルエンザワクチン接種が年一回だから、コロナも年一回にしようという動きがあるようです。しかし、年1回のブースター接種で大丈夫だという科学的エビデンスはありません。最後のワクチン接種からの経過期間が6か月の場合と12か月の場合で重症化率が違うのかを確かめるトライアルが必要です。6か月ごとにコロナワクチンを打つというのは確かに大変で、できれば避けたいと思う人が多いでしょうが、拙速な決定は避けなければならないと思います。

新型コロナワクチン：年1回接種で良いのか？

Mahase E. Covid-19: Annual flu-like booster approach may not be appropriate, says expert on infectious disease. *BMJ*. 2023;380:p196. Published 2023 Jan 25. doi:10.1136/bmj.p196

次のパンデミックへの備えが不十分だと、感染症専門家は警告

米国感染症学会会長カルロス・デルリオ氏は、WHOが新型コロナをパンデミックからエンデミックにグレードを下げるかどうかにかかわらず、現在世界で必要なのは、新たなパンデミックに対する公衆保健的対応をしっかりと準備する事だと述べた。

「新型コロナが収束したとしても、公衆保健対策が一段落ということにはならない。今後襲来するはずのパンデミックへの準備を怠りなく進めなければならない。これを実行しなければ、大きな損失を覚悟しなければならない。準備なしに始まった新型コロナパンデミックでは、ほどほどの対応ができたが、次はどうなるかわからない」と1月24日に米国感染症学会と欧州臨床感染学会との合同記者会見で彼は語った。

新型コロナによる死亡者は全世界で671万人と公式発表されているが、2020年から21年の世界全体の超過死亡は1490万人となっている。

1年に1回の接種でよいのか

今後の新型コロナ対応について、デルリオ氏は毎年1回のブースターワクチン接種が提案されていることに触れた。これは、新型コロナをインフルエンザと同じ季節性流行病と位置付け、イギリスやアメリカなど多くの国で検討されてきたことである。アメリカではFDAが、この線に沿って計画を立案中である。

しかし、エモリー大学医学部副学部長のデルリオ氏は、この提案に疑問を呈した。

「インフルエンザでは、流行株を予測して毎年接種するワクチンを更新してきた。新型コロナでも同じようにやれると思うかもしれないが、新型コロナワクチンはインフルエンザワクチンと大きく違う」と語った。

彼は「アメリカが二価ワクチン接種を決めた一方、多くの欧州諸国は一価ワクチンによるブースター接種を行ったが、効果に大きな違いは見られなかった。

したがって、ポイントは、ブースターワクチンの種類でなく、どれくらいの間隔で接種するかということだ。残念ながら、適切な接種間隔がどれくらいかは、まだわかっていない」と述べた。

「新型コロナウイルスの特徴は、頻繁に変異することだ。必要なことは、サーベイランスと研究を続けて、科学的根拠に基づいた方針を練り上げることだ。インフルエンザワクチン接種に倣うという安易な道を採用すべきでない」と付け加えた。

FDAは1月26日にワクチン専門家26名による検討委員会を実施して、毎年1回のブースター接種が適切かどうかを討議するという。

CDCは、アメリカの二価ワクチン接種率は、最初のワクチンシリーズ接種率よりもずっと低く、国民全体の15%、65才以上の39.6%に過ぎないと報告している。

「ブースター接種率が極めて低いため、感染した場合重症化するおそれのある人々が極めて多いということになる。変異株が流行している中で、2回あるいは3回のワクチン接種だけでは、重症化防止にはまったく十分ではない。65歳以上の人々ではなおさらである」と彼は語った。

中国のワクチン接種について

ゼロコロナ政策を放棄した中国の状況について、デルリオ氏は、中国政府が自国以外で開発されたワクチンを接種することを拒否していることを懸念すると述べた。

「現在感染者が莫大に増加していることは驚くに当たらない。14億の国民の大部分が感染免疫もしっかりしたワクチン免疫も保持していないのだから当然だ。中国国家衛生健康委員会は、住民へのワクチン接種を急速に進め、人工呼吸器と抗ウイルス薬の在庫を増やし住民の命を守ろうと頑張っている。しかし、中国が自国で開発された以外のワクチンを使おうとしないのは問題だ」

先月WHOは中国政府に、高齢者や基礎疾患のある人々を重点と下ワクチン接種計画強化を申し入れた。

中国ではコロナバクとシノファームのワクチン接種率が高いが、効果に疑問が寄せられている。さらに、60才以上3割が未接種である。

デルリオ氏は、中国で新たな懸念変異株が発生するかどうかについても言及した。

「現在のところ、中国が国際的データベースに提出した国内流行株のほとんどは、BA5から派生した株であり、新たな変異株は見つかっていない。一方、ニューヨーク州で流行しているXBB1.5がアメリカ、イギリス、欧州諸国に流行するおそれがあることに注意が必要だ」と語った。

「引き続きしっかりとサーベイランスをすることが重要だ。65才以上に追加ワクチンを接種することが必要だ。パンデミック当初よりも状況は改善しているが、ウイルスの変異をしっかりとフォローする必要がある。コロナパンデミックはまだ終息に程遠いのだから」と彼は結んだ。